
モテるカマキリ

宇野直人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モテるカマキリ

【Nコード】

N2552R

【作者名】

宇野直人

【あらすじ】

カマキリのモテる方法とは

あるところに豆電球ばかりを食べるカマキリがいました。名前をカマ太郎がいました。

「そんなの食べて大丈夫なのかよ」

その食べる姿が異様で、仲間からは気味が悪く見えました。

「ああ、これが美味いんだ。一度食べるやみつきになるんだ」
器用に手前のカマを使って食べます。

「お前も食べるか？」

「俺は昆虫でいいよ」

「そうか。食べたくなったらいつでも言えばあげるからおいで」

そう言ってもう一匹のカマキリは昆虫を捕りにいきました。

しばらくしてカマ太郎は、身体が光るようになりました。全身をピカピカさせるとメスのカマキリは大喜びをしました。彼はたちまちカマキリの中で一番モテるようになりました。

その姿を見た他のカマキリはこぞって豆電球を食べたがるようになりました。しかし豆電球はすべてカマ太郎が持っていました。カマ太郎は昆虫と引換に豆電球と交換するようになりました。

オスのカマキリは必死になって食べました。とても食べられるものではないと皆は感じていましたが、メスにモテるために毎日食べ続けることにしました。

すると、豆電球を食べたカマキリは身体が光るようになりました。ピカピカと光らせているとたちまちメスのカマキリがやってきて皆モテるようになりました。

しばらくすると、空から小鳥がやってきました。小鳥たちは空から目立つカマキリを一匹残らずぱくりと食べてしまいました。

こうしてオスで残ったのはカマ太郎だけになりました。カマ太郎は豆電球と交換して得た昆虫を食べるようになり、身体は光らなくなりました。しかしカマ太郎はたくさんメスからモテるようにな

りました。

こうしてカマ太郎はメスを独占することに成功したのです。

(後書き)

これであなたのモテモテ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2552r/>

モテるカマキリ

2011年10月8日13時19分発行